

第1回 走りやすくにぎわう高松中央通りを目指す委員会

議事要旨

1. 日 時 平成28年12月5日(月) 16:00~17:30

2. 場 所 香川県県民ホール(レクザムホール) 小ホール棟4階大会議室

3. 議題

(1)中央通りおよび周辺エリアの現状・動向について

(2)意見交換

4. 議事要旨

(路線、ネットワークについて)

- ・まちの賑わいと交通機能の両立は議論が必要。便利、賑わいに対して自動車交通、大型車等をどうしていくのかを考えると、周辺のネットワークと関係づけて考えていくことが必要
- ・フェリー通りは本町交差点の問題や、水城通りとの交差点が混乱しやすい状況となっていることがあり、迂回交通が中央通りに流れている可能性がある
- ・国道30号を考える場合、東西の水城通り、サンポートから寿町まで、寿町から番町までの3つに分ける必要がある
- ・高松城は日本三大水城というが、残りの2つの今治、中津と比べても海に面しているのは高松だけ。これを考えると水城通りをなくすということも考えられる
- ・サンポートとダウンタウンをどうつなぐかが重要。サンポートは景観整備がされ、商店街も活性化が進められている中で、中央通りのあり方は重要な議論
- ・ウォータフロントと交通の機能等、色々な観点があるので、切り分けて議論していく必要がある。道路には本来、交通機能とアクセス機能があるが、日本の道路はほとんどこれを分けられていない。中央通りはまちなかにある道路としてはアクセス機能が重要なのもかもしれないが、周辺のネットワークもふくめ交通を捌く機能も考慮しておかなければならない
- ・(中央通りも)海と同じように役割が変わってきていると思う

(歩行空間、回遊性について)

- ・車が少なくなってくる中で歩きやすい空間づくりをどうコーディネートするかが重要。いつも中央通り等に人がいるという状況になると良い
- ・海外観光客が増加しており、海外が重要になってきている。外国人も歩きたいと思ってもらう観点も必要
- ・中央通りが歩いて楽しくなるような形となるよう検討すべき。中央通りは歩いていると食べる場所が無い印象がある。食、歴史、文化等をマッチングさせ、ネットワークとして回遊してもらえようにするためにどうしていくべきか
- ・歩いて楽しいというのがキーワードとなるが、現状では歩きたいとは思えない。歴史・文化を活かすことも考える必要があるし、最近では夜光る塗料等もありアトラクション性を考慮することも考えられる
- ・高松の人口規模で考えると現在は商業面積が多すぎる状況。商業をメインにして中央通り自体に賑わいをつくるのは難しい。歩道部分をいかにきれいに整備するかが重要ではないか
- ・歩道を歩いてもらうにはどうしたらよいかを考える必要がある
- ・中央通り自体を観光にするのはなかなか難しいのではないか。ここを通過して市内観光、回遊するためのサイン等の整備をしっかりとしてほしい
- ・最近全国各地のシンボルロードで道路法の適用を外し別途条例を定めることで、広場等として空間を使う取り組みが広がっている
- ・一部かつての堀の部分を掘り起こすことなども考えられる
- ・駅やサンポートから商店街や北浜アリーまでは少し距離があり、歩くには微妙に遠い。公共交通も重要だが、新しいモビリティ等を活用していくこともあり得る
- ・中央通りはどう見ても美しくなく歩きたいと思えない。歩いてみたいと思ってもらうよう、現代美術作品を並べたり、きれいに整備することが大切
- ・横浜の日本大通りの歩道等は都市のイメージを変えるようなデザインの力を示したものになっている。歩道のデザインについては今後事例紹介もさせていただきたい

(臨海部のにぎわいづくりについて)

- ・海の正面に城があり、その背面に扇形に町が広がっている構造は日本で唯一。これを活かさない手はない。水城通りをどう考えるかが重要

- ・港とまちがこれほど密接につながっている都市は瀬戸内の中でも珍しい。検討対象ゾーンの中に、海の資源を入れられると良い
- ・近年クルージング観光が全国的に注目されているが、高松は外せないポイントとなっているし、高松に寄港すれば必ず中央通り周辺を通ることになる。陸の中の観光と利便性に加えて、海からのアプローチを考慮していくことで特徴が際立ってくる
- ・クルージング開発、海外からの呼び込みが課題となっている中で、高松にくる小型の船、ヨット等は、現状では大的場アプローチしているが、第二棧橋周辺に船がつけられると、海から高松を見るというシチュエーションが増え、景観を含めたまちの特徴が浮き彫りになり、売りになる
- ・ヨーロッパの港は人でにぎわう都市の象徴、楽しい場所となっている。日本では法の規制があり、楽しい空間を作ることを妨げている状況とも言える
- ・現在水城通りの北側は公園のような空間になっているが、色々な人がここに集まってこられるようボート、ヨットを止められるビジターバース等を作るとマルセイユのようなイメージでにぎわうのではないか
- ・フィッシャーマンズワーフのようなものがあるだけでエリア全体として大きく変わる
- ・水城通りや兵庫町より北側のエリアで、海からの文化や人、高松の歴史的価値をどう受け入れて活かしていくかがポイントになってくる
- ・水城通りは道路としてより親水部としていかに価値を高めるかが重要